

# 黒部市地域公共交通計画への移行スケジュールについて（再掲）

## 1. 第2次黒部市地域公共交通網形成計画の現状について

本市においては、令和2年3月に第2次黒部市地域公共交通網形成計画を策定し、「①鉄道を軸とした公共交通の維持」、「②公共交通網を支える潜在的需要の開拓」、「③公共交通網の維持に向けた運行体系の確立」、「④新幹線効果の維持・向上」、「⑤利便性と魅力を高める公共交通環境の提供」及び「⑥「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」の推進」を基本方針に位置付け、それらの基本方針に沿った事業を進めてきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大や燃料価格高騰など、公共交通を取り巻く社会情勢が変化し、一部の実施事業の進捗に支障をきたしているほか、利用者数については、本計画策定時の利用者数から大きく減少しています。

### 【参考】市内公共交通利用者数

利用者数	計画策定における現状値(H30)	計画の目標(R5)	令和3年度(計画3年目)
鉄道(※)	3,471,161人/年	3,674,000人/年	2,146,565人/年
路線バス	189,787人/年 (集計期間 H30/4~H31/3)	200,000人/年	131,361人/年 (集計期間 R4/4~R4/3)

(※) 各鉄道会社から提供された市内駅の1日平均利用者に365日をかけて算出しています。

## 2. 黒部市地域公共交通計画への移行について

近年の人口減少の本格化、高齢者の運転免許返納の増加、運転手不足の深刻化、公共交通を確保・維持するための公的負担の増加等により、「民間の交通事業者が収益を確保できる形で公共交通を担う」という構造が難しくなっています。

こうしたことから、地方公共団体が中心となり、多様な関係者が連携し、地域の暮らしと産業を支える移動手段を確保することがますます重要となっています。

本市においても、これらの課題に対応するため、第2次黒部市地域公共交通網形成計画で策定した基本方針と事業を継続しつつ、「増大する公的負担」や「様々な移動手段」の確保について、その必要性を明確にするため、特にバス路線ごとの具体的な収支計画や財源計画を盛り込む「黒部市地域公共交通計画」に移行します。

また、同計画では、従来のバスやタクシーといった既存の公共交通サービスを最大限活用した上で、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバス、福祉輸送、病院・商業施設・宿泊施設・企業などの既存の民間事業者による送迎サービス、物流サービス等の地域の多様な輸送資源を総動員する視点も加え、持続可能な地域旅客運送サービスの確保を目指します。

### ◎黒部市地域公共交通計画への移行における基本的な考え方

- (1) 第2次黒部市地域公共交通網形成計画で策定した基本方針と事業を継続
- (2) 路線バスにおける具体的な収支計画や財源計画の指標作成
- (3) 既存の公共交通サービスを最大限活用した上で、必要に応じて自家用有償旅客運送等の多様な輸送資源を総動員する視点の導入
- (4) 公共交通を補完する移動手段の検討

### 3. 計画移行に伴う作業の実施内容

実施作業	実施内容
1. 現況把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況の整理と検証を行い、市内公共交通の利用者数、収支状況及び運行体制などの現況把握を行う。</li> </ul>
2. 利用者ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次形成計画策定時における市民の公共交通への満足度、ニーズ等を踏まえ、公共交通利用頻度の変化を把握するため、住民アンケート、黒部宇奈月温泉駅利用者アンケート及び利用者アンケートなどの定点調査を行う。</li> </ul>
3. 黒部市地域公共交通計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況把握、アンケート調査の結果及び別途事業で実施する第2次黒部市地域公共交通網形成計画の検証結果等に基づき、現状の課題の整理を行う。</li> <li>上位計画、関連計画を踏まえ、公共交通網の整備における基本方針を再確認する。</li> <li>第2次黒部市地域公共交通網形成計画の基本方針を引き継ぎ、公共交通の維持に向けた路線バスごとの指標を作成する。</li> <li>既存の公共交通サービスを最大限活用した上で、必要に応じて自家有償旅客運送やスクールバス、福祉輸送、病院・商業施設・宿泊施設・企業などの既存の民間事業者による送迎サービス、物流サービス等の地域の多様な輸送資源を総動員する視点も加える。</li> <li>これらをまとめた上で、持続可能な地域旅客運送サービスの確保を目指す「黒部市地域公共交通計画」の案を作成する。</li> </ul>

### 4. スケジュール（予定）

会議等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
黒部市公共交通戦略推進協議会及び作業部会の開催					↔			↔			↔	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>現状把握、課題整理</li> <li>課題解決に向けた取組の整理</li> <li>路線バス指標の整理</li> <li>計画骨子の検討</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>計画書素案の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>計画(案)の検討</li> </ul>	
パブリックコメント									↔			
実施作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 公共交通に関する現況整理	←————→											
2. 利用者ニーズ調査				↔								
3. 黒部市地域公共交通計画(案)の作成					←————→							

# 公共交通を補完する移動手段の検討について（再掲）

## 1. 背景と課題

近年の人口減少の本格化、高齢者の運転免許の返納の増加により、地域公共交通への期待が高まっている中、「自宅から駅やバス停への移動手段」、「駅やバス停から目的地への移動手段」である「公共交通を補完する移動手段」の確保が顕著な課題となりつつあります。

県内においても朝日町や高岡市での自家用有償運送サービス「ノッカル」の運行、富山市駅北エリアの電動小型車両による実証実験、砺波市や氷見市の地域バス実証実験など、様々な取組が行われています。

本市においても、路線バスがなじまない地域でのデマンドタクシーの運行や中心市街地でのシェアサイクル「ちょいのり黒部」を実施し、地域の実情に応じた移動手段の確保に努めているほか、今年度からは、自家用有償運送や中心市街地での電動小型車両導入に向けた研究にも着手しています。

今までであれば、「公共交通を補完する移動」は自身又は家族の運転する自家用車や自転車、徒歩が当たり前でした。

しかしながら、人口減少と高齢化の同時進行により、高齢者だけの世帯が増加し、最寄り駅やバス停まで家族に送迎してもらえない方が出てきている現状を踏まえ、「公共交通を補完する移動手段」を確保し、公共交通の利便性向上に繋げる検討を行う必要があります。

## 2. 検討事項

公共交通では対応し難い、いわゆる「小さな移動」を解決し、高齢者の公共交通利用を促進し、「出かけやすいまちづくり」を実現するため、以下の観点から検討を行います。

### 【検討事項】

- (1) 住民同士が移動を支え合う仕組み作り
- (2) 中心市街地における近距離移動手段の確保
- (3) 既存の公共交通との住み分け

### 【検討の場】黒部市公共交通戦略推進協議会

地域公共交通計画の基本的な考え方の一つである「輸送資源の総動員」に基づき、「黒部市地域公共交通計画」への移行の「課題の解決に向けた取組の整理」の中で議論し、計画に反映することを考えています。

## 3. 【参考】公共交通を補完する移動手段の主な事例

- (1) ノッカルによる住民同士の移動の支え合い（朝日町全域、高岡市中田地区）
- (2) 富山駅駅北エリア～環状公園を結ぶグリーンスローモビリティ（富山市）
- (3) 地域バス実証実験（砺波市、氷見市）
- (4) 中心市街地でのシェアサイクル（富山市、黒部市）